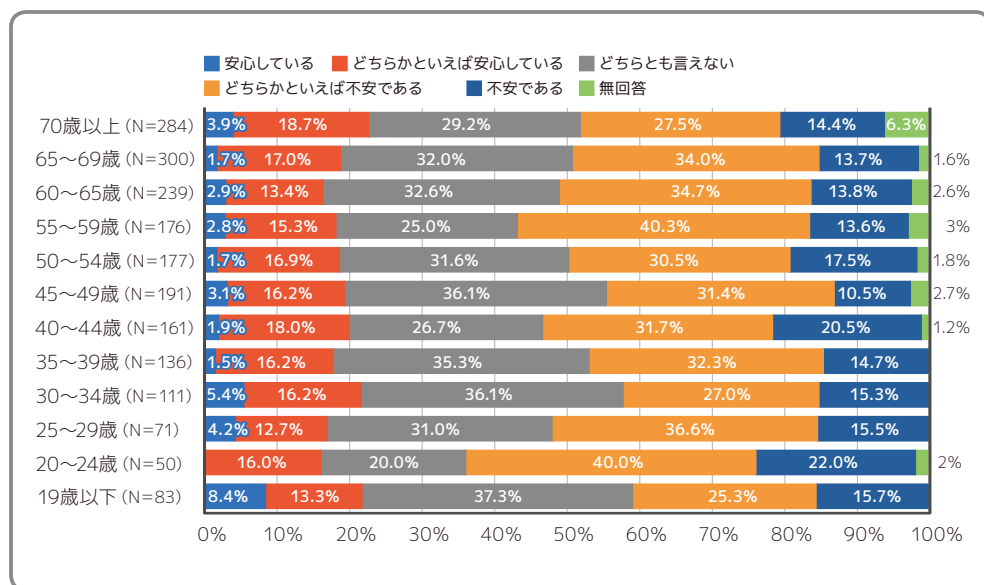


第5章 まちづくりの基本方針

第1節 直面する最重要課題

令和元年6月に実施した「西条市まちづくりに関する市民アンケート」の結果、西条市では、20～24歳を中心に、比較的多くの若い年齢の方が西条市の未来について「どちらかといえば不安である」「不安である」と回答する傾向がみられました。

図表5-1 西条市の未来をどのように感じているか（年齢別）

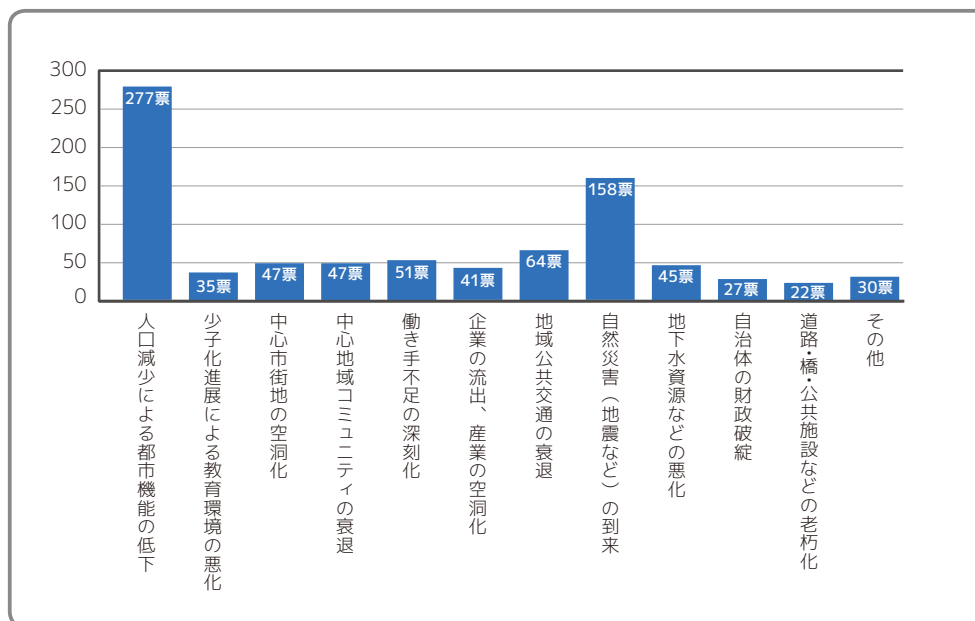


出典：令和元年度西条市まちづくりに関する市民アンケート

また、特に不安を感じる点として、「人口減少による都市機能の低下」と回答する方が「自然災害（地震など）の到来」を押さえて最も多くなりました。かつては、市民の皆さまにとって人口減少問題は実感しにくい課題であったのかもしれませんが、今日的には最も深刻な課題として捉えられるようになってきました。

そこで、後期基本計画では、人口減少が市民生活に対して影響を与えるようになった現状を踏まえ、「人口減少・少子高齢化への対応」を直面する最重要課題として掲げ、具体的な施策内容を組み立てることとします。

図表5-2 特に不安に感じる点（単純集計）（N=844）



出典：令和元年度西条市まちづくりに関する市民アンケート

第2節 令和6年度に向けた達成目標

市民の皆さまとともに、直面する最重要課題である「人口減少・少子高齢化への対応」の解決に向けて努力し続けていく視点として、令和6年度に向けた達成目標について、次のとおり設定しました。

みんなで実現しよう！持続可能な西条市 （西条市SDGsの推進）

また、令和6年度に向けて優先的に取り組むべき目標を以下の3点として、6つの基本目標のもと、目指すべき将来都市像である「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現に向けて施策を推進していくこととします。

- （１）健康寿命の延伸
- （２）働きがいの創出・経済活力の維持
- （３）経営感覚のある行財政運営の実践

第3節 西条市SDGsの推進

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goalsの略）は、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、平成28年から令和12年までの国際目標です。SDGsは、先進国、開発途上国を問わず世界全体の経済、社会および環境の三側面における持続可能な開発を統合的取組として推進するものです。SDGsでは、17のゴールと169のターゲットが設定され、進捗状況を測るための約230の指標（達成度を測定するための評価尺度）が提示されています。

近年、全国の自治体による地域のステークホルダーと連携したSDGsの達成に向けた積極的な取組が推進されており、それらの取組の総体は「自治体SDGs」と言われています。

国を挙げて推進している地方創生は、少子高齢化に歯止めをかけ、地域の人口減少と地域経済の縮小を克服し、将来にわたって成長力を確保することを目指しています。地方が将来にわたって成長力を確保するには、人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりと地域活性化が重要です。特に、急速な人口減少が進む地域では、くらしの基盤の維持・再生を図ることが必要です。

SDGsは、先進国、開発途上国を問わず、世界全体の経済、社会及び環境の三側面における持続可能な開発を統合的取組として推進するものであり、多様な目標の追求は、日本の各地域における諸課題の解決に貢献し、地方の持続可能な開発、すなわち地方創生を推進するものです。

SDGsにおいては、17のゴール、169のターゲットが設定されるとともに、進捗状況を測るための約230の指標が提示されています。これらを活用することにより、行政、民間事業者、市民等の異なるステークホルダー間で地方創生に向けた共通言語を持つことが可能となり、政策目標の理解が進展し、自治体業務の合理的な連携の促進が可能となります。これらによって、地方創生の課題解決を一層促進することが期待されます。

そこで、西条市においても、後期基本計画の達成目標を「みんなで実現しよう！持続可能な西条市（西条市SDGsの推進）」と設定することとし、後期基本計画に基づく各施策について、地域のステークホルダーと連携して推進することを目指すことにより、協働のまちづくりを深化させていくこととしました。

図表5-3 西条市SDGs概念図

